

# 布施の心

19

## 【独立(2)UV耐性ベルト】

妻と一人で、テフロン製品を手作りする毎日だったが、少しずつ売れ始め、6畳4畳半の住まい兼工場は手狭になってしまった。知り合った近所の石川さんが、「私が窮屈そうに仕事をしているのを見て、「ここに三畳の間でも建ててやろうか」と、借家の庭を指差しながら親切に言ってくれた。

「ここ借家ですか、ダメでしょう」

「いや、大家は俺の友だちだから聞いてみてやるよ」

石川さんは大家のところから帰つてくると、「大家はいいって言つてるよ」と、事もなげに言つではな

いか。

「だけど、お金がかかるでしょ?」

「大丈夫だよ。三畳くらいだから、たいしたことないよ。まかしききな」

石川さんはとても器用で、家を解体したときに出る窓や扉などを集めてきて、あつという間に小屋を建ててくれた。私がお金を出したのは、壁材のベニヤ板と屋根のトタン代くらいいのものだった。こうして、狭いながらも工場が出来た。因みに石川さんの息子さんはその後当社の第一号社員になつてくれた。そして今でも頑張つてくれている。縁とは、不思議なものだ。

開業間もない頃、世界に激震が走つた。一九七三年のオイルショックだ。石油価格の高騰によって、世界経済はたちまち大混乱に陥つた。日本でも、トイレットペーパーの買いだめ騒ぎなどが起き、諸物価は高騰して、悪性のインフレ状態になつた。

しかし、政府や国民の必死の合理化努力で、日本は他国に先んじてこの危機を乗り越えようとしていた。私は、世界や日本の動きを尻目に、自先の仕事に必死で取り組んだ。製品として狙いを定めたのは、UV(紫外線)耐性のテフロ

UV耐性ベルト

2023年3月本多産業株式会社は  
設立50周年を迎えました。

**本多産業株式会社**

【本社】神奈川県横浜市戸塚区戸塚町3814  
TEL:045-869-1133  
【長崎工場】長崎県雲仙市吾妻町布江名677  
TEL:0957-38-3520

UV耐性ベルト

ンベルトだった。岩崎電気からも、「まだUV耐性のベルトがないから作つてほしい」と相談を受けたからだ。当時、大日本インキがUVで硬化する塗料を開発したばかりだった。それに呼応して、岩崎電気やウシオ電機などが次々とUVランプを売り出した。今まで、例えは缶詰めの場合、缶の表面に熱風を吹き付けてプリントするのだが、五十メートルくらいの長い作業ラインが必要だった。しかし、UV照射だと、短い距離で瞬時に塗料を硬化して定着させることができるので、時間とスペースが大幅に省略できることになった。

しかしまだ、この工程で必要となるUV耐性ベルトがなかったのだ。以前知り合つたデュポンファーリーストに、思い切つて出向いて、ケブラー糸(テフロンを使用した半製品)を分けてもらうお願いをした。

「UVには向いてないよ」

「いえ、やり方によつては使えるかもしませんので」必死の交渉で、念願のケブラー糸を仕入れることができた。

また、それをベルト状に織り込まなければいけなかつたので、あちこち探して浜松にある織り屋さんに行き着いた。

そこは、消防用ホースを織つている会社で、最初は「用途が違いますので」と断られたが、粘つてなんとか織つてもうことにした。

このUV耐性ベルトが意外な評価を得た。岩崎電気でもOKと、次々に大手から受け入れられたのだ。

大手との継続取引の話が具体化すると、恵ましい問題が起きてきた。大手企業はどこも決まって言つてくる。

「工場を見せていただけませんか。確認しないと、社内での取引の承認が降りませぬので」

まさか6畳と4畳半の住まい兼作業場を見せるわけにもいかず、「当社はどうなたにも工場をお見せしない」として、「います」とか「下請けに製造を任せていますので」などと、冷や汗混じりの弁解をして、なんとかその場をしのいだ。

(次回4月4日掲載予定)

本多  
克也

（題字も）

文・徳永 耕一